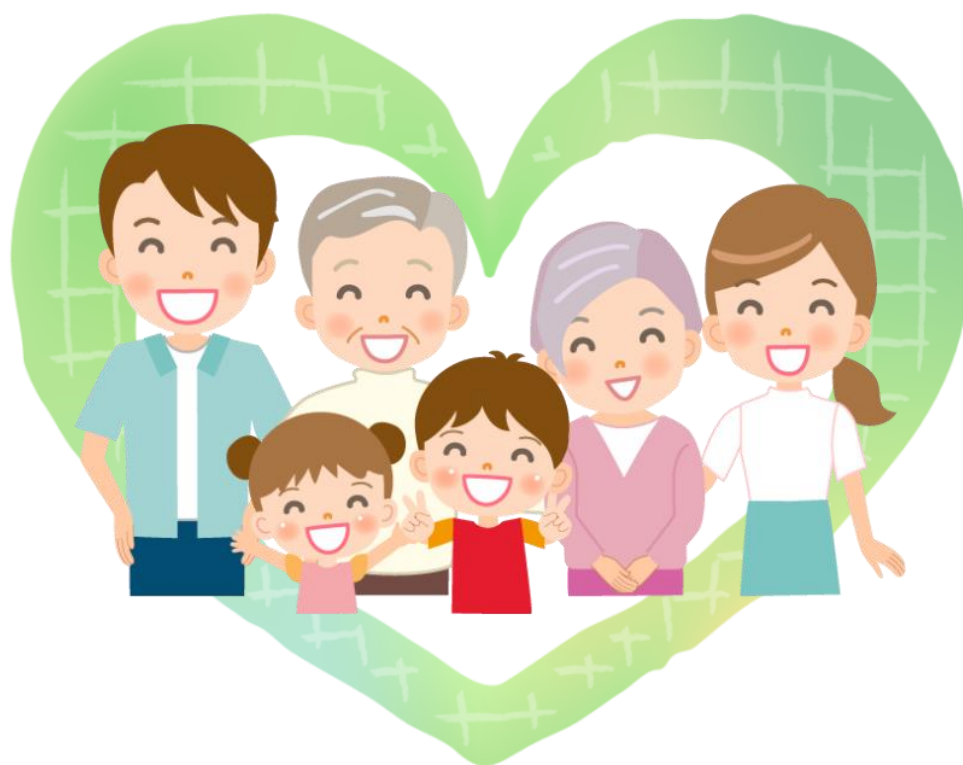


(仮称)町田市いきいき長寿プラン24-26

(素案) 一部抜粋



2023年12月
町田市

目次

第1章 はじめに

- 1 町田市いきいき長寿プランとは
- 2 町田市いきいき長寿プラン24-26策定の流れと進捗評価
- 3 高齢者を取りまく状況

第2章 町田市の現状と課題

- 1 町田市の現状
- 2 町田市の課題

第3章 施策の方向性

- 1 基本目標と基本施策
- 2 プランの施策体系

第4章 3つの重点テーマ

- 1 「社会参加」で介護予防・フレイル予防
- 2 認知症とともに生きるまちづくり
- 3 あつまる・つながる まちだの介護人材

第5章 目標達成に向けた取組み

- 基本目標Ⅰ 基本施策1 生きがいを持っていきいきと暮らす
- 基本目標Ⅰ 基本施策2 地域とつながり、支え合いながら、安心して暮らす
- 基本目標Ⅰ 基本施策3 認知症とともに生きる
- 基本目標Ⅰ 基本施策4 住み慣れた場所で暮らし続ける
- 基本目標Ⅱ 基本施策5 必要な介護サービスが受けられる
- 基本目標Ⅱ 基本施策6 よりよい介護サービスが受けられる

第6章 介護保険事業の事業費と保険料

- 1 介護保険制度の役割
- 2 総事業費の推計にあたって
- 3 第9期計画の総事業費の見込み
- 4 第9期計画の介護保険料

資料編

- 1 グラフデータ出典一覧
- 2 用語解説
- 3 日常生活圏域

第4章 3つの重点テーマ

- 1 「社会参加」で介護予防・フレイル予防
- 2 認知症とともに生きるまちづくり
- 3 あつまる・つながる まちだの介護人材

2

認知症とともに生きるまちづくり



認知症は誰にでも起こり得る身近な症状です

認知症とは、何らかの原因で脳の働きが低下することや、脳の細胞が損傷を受けることで、認知機能(物事を記憶する、問題を解決するために深く考える、言葉を使う、計算するなどの頭の働き)が低下し、さまざまな生活上の支障が現れる状態を指します。

例えば、認知症を引き起こす主な病気のひとつであるアルツハイマー病では、新しいことを覚えられなくなる、いつも通る道で迷ってしまうなどの症状が出る場合があります。

「認知症とともに生きるまち」を目指して

高齢化の進行に伴い、今後も認知症の人は増加し、2040年には市内の高齢者のほぼ5人に1人が認知症になると見込まれています。

人生100年時代と言われる今、誰もが認知症とつきあって生きることがあたり前になりつつあります。町田市では、認知症になっても地域の中で自分らしく活躍できる「認知症とともに生きるまち」を目指しています。

町田市が行う様々な取組みは、認知症の人の声を大切にされた事例として、国内外から多くの視察や取材を受けるなど注目されています。

認知症の人とつくった「16のまちだアイ・ステートメント」

町田市では、認知症の人やその家族、医療福祉関係者、行政、民間企業、NPO、研究者など幅広いメンバーで話し合いを行い、認知症の人にとって町田市がどのようなまちであってほしいかを、「アイ＝私」の視点で16の文章にまとめた「16のまちだアイ・ステートメント」を策定しました。

ステートメントの中の「私」は、今認知症である「私」や、これから認知症になり得る「私」を指しており、地域の関係者が目指すべき地域のあり方や活動のビジョンとして共有しています。

Machida "I" statement

01 私は、早期に診断を受け、その後の治療や暮らしについて、主体的に考えられる。

04 私は、私の言葉に耳を傾け、ともに考えてくれる医師がいる。

05 私は、家族に自分の気持ちを伝えることができ、家族に受け入れられている。

06 私の介護者は、その役割が尊重され、介護者のための適切な支援を受けている。

07 私は、素でいられる居場所と仲間を持っており、一緒の時間を楽しんだり、自分が困っていることを話せる。

12 私は、地域や自治体に対して、自分の経験を語ったり、地域への提言をする機会がある。

16 私たちも、認知症の人にやさしいまちづくりの一員です。

その他のステートメントは町田市 HP をご覧ください。



「認知症とともに生きるまち」の 実現に向けた取組み

町田市では、地域住民をはじめ、多種多様な分野の団体等と16のまちだアイ・ステートメントの理念を共有し、ともに「認知症とともに生きるまちづくり」に向けた取組みを推進しています。その取組みの例と、取組みによって実現を目指すアイ・ステートメントの番号を紹介します

その1【Dカフェ】

Dカフェとは、町田市内で開催している様々な認知症カフェの総称です。認知症の人やその家族、支援者、地域住民など、どなたでも気軽に参加し、気兼ねなく気持ちを語り合うことができます。

町田市が開催するDカフェは、コーヒーチェーン店の協力により、市内の店舗で定期的に開催しています。この他にも、市内にはNPO や社会福祉法人などが主催するDカフェが多数あります。

Dカフェは一人ひとりの気持ちに寄り添う温かい場所です。町田市では、このように認知症の人の身近な居場所づくりに引き続き取組んでいきます。

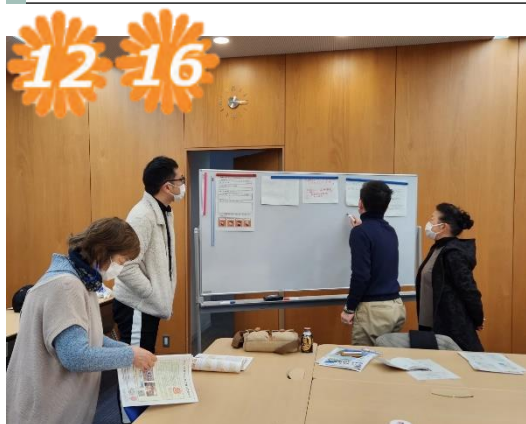
ご自身の事でもご家族の事でも、認知症については是非一緒に話しましょう。



詳細は町田市 HP を
ご覧ください。



その2【まちづくりワークショップ】



まちづくりワークショップは、認知症の人とその家族、医療福祉関係者、企業、学生等、幅広い方々とともに「認知症とともに生きるまち」を実現するために何が出来るかを考える場です。

皆さんも一緒に、まちづくりのアイデアを実現してみませんか？

その3【認知症の人の家族等への支援】



現在の生活を継続していくにあたって介護者が不安に感じることについて、市民へ調査したところ、第1位が「外出の付き添い、送迎等」で22.6%、第2位が「認知症状への対応」で21.2%でした。認知症と診断されたご本人がこれからの生活に不安を感じるように、そのご家族も、認知症と診断された配偶者や親等との関係性や、生活環境の変化に戸惑い、不安や負担を感じていることが考えられます。

「認知症とともに生きるまち」は、認知症の人の家族等にとっても自分らしく活躍することができるまちです。町田市では、当事者の声を聞きながら、認知症の人の家族等に寄り添った取組みを進めていきます。

その4【認知症サポーター】～活動の輪が広がっています～

認知症サポーターは、認知症を正しく理解し、地域で認知症の人を温かく見守る人のことです。市が実施する認知症サポーター養成講座を受講すれば、誰でも認知症サポーターになることができます。市内には、2022年度末の時点で36,457名のサポーターがいます。

サポーターの中には、認知症の人を見守るだけでなく「認知症の人とともに活動したい」という人が増えています。このため、独自にグループをつくり支援活動を行うなど、認知症サポーターはそれぞれの地域で活躍しています。

市では、そのようなサポーターへの情報提供や、交流会の開催等を通して、活動の支援を行います。



その5【認知症相談】

認知症について気軽に相談することができます。

「認知症電話相談」では、認知症への不安や、病状、受けられるサービス等について専門の相談員が電話での相談に応じます。ご相談は匿名でも受け付けています。

各高齢者支援センターでは、ご本人やご家族と対面により、医師や臨床心理士による相談を行っています。



その6【初期集中支援チーム事業】

認知症は早期に診断を受け生活環境を整えることで、症状の安定化につながりやすくなります。

そのため当事業では、認知症の症状が見受けられる方を対象に、高齢者支援センターと医師、看護師等の医療職からなるチームが家庭訪問を行います。

専門医への受診のサポートを行うほか、ご本人の状況に合わせた介護サービスの紹介等により、住み慣れた地域での生活の継続を支援します。



あなたも、「認知症とともに生きるまち」の一員です

16

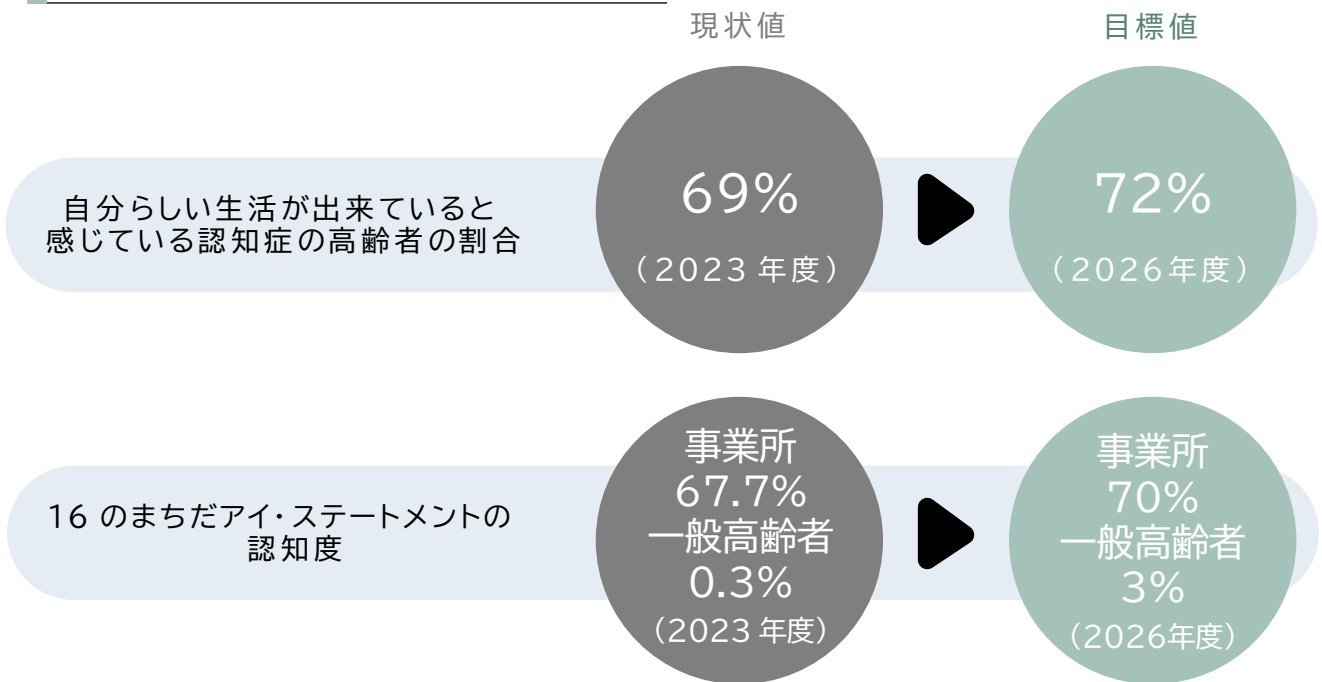


16 のまちだアイ・ステートメントに関連した住民同士の小さな思いやりや、地域団体が行う活動の積み重ねが、「認知症とともに生きるまち」につながります。そして、認知症である「私」も、これから認知症になり得る「私」も、まちづくりの一員です。認知症の有無に関わらず、すべての人が活躍できるまちを、一緒につくっていきましょう。

指標の紹介

目標の達成状況や取組みの成果を測るために以下の指標を定めました。

取組みの成果を測る指標



取組みの進み具合を測る指標

	指標	現状値 2023 年度	目標値 2024 年度	目標値 2025 年度	目標値 2026 年度
①	認知症サポーターの養成人数 (累計)	38,900人	40,000人	41,100人	42,200人
②	認知症初期集中支援チーム事業により医療機関の受診につながった対象者の割合	70%	70%以上	70%以上	70%以上

6

「認知症とともに生きるまち」の実現に向けて取組む

取組みの概要

認知症になっても地域の中で自分らしく活躍できる「認知症とともに生きるまち」に向けて、DカフェやDボックス*等、認知症当事者の視点を重視した取組みを実施します。

また、住民や企業・地域団体等多くの関係者が仲間となってまちづくりに取組むための、ワークショップの開催等、認知症が正しく理解されるための普及啓発を行います。

主な取組み

① Dカフェの実施

認知症の人やその家族のほか、地域住民などが気軽に参加し、交流を通して、率直な気持ちを打ち明けたり、悩みなどを共有できる居場所として、Dカフェを定期的で開催します。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっているDカフェの再開を含め、市内で行われるDカフェが増えることを目指します。

② 認知症とともに生きるまちづくりワークショップの実施

学生、地域団体、医療福祉関係者、企業等と行うワークショップを通じて、認知症の人への支援や、認知症の人と一緒にいる地域活動など、「認知症とともに生きるまちづくり」に主体的に取り組む仲間を増やします。

③ 認知症について考える「普及啓発イベント」の実施

より多くの市民等に「認知症とともに生きるまちづくり」に関心を寄せていただけるよう、認知症の正しい理解を普及啓発するイベントを実施します。イベントでは、認知症の人が認知症と診断されて感じたことや、参加者に向けたメッセージなど、認知症の人が自分の気持ちを発信できる機会をつくれます。

④ 16 のまちだアイ・ステートメントの普及

認知症とともに生きるまちの目指すべき姿である「16 のまちだアイ・ステートメント」を多くの方に知っていただくことで、認知症の人の思いやまちづくりへの理解を広めます。また、これらの普及を図るための広報ツールを作成します。

⑤ 認知症サポーターの活動支援

認知症サポーター養成講座を実施し、認知症の人の良き理解者である「認知症サポーター」を養成します。また、地域活動に関心のある認知症サポーターが地域で活躍できるよう、交流会の開催や地域活動の情報提供等を行い、活動への参画を支援します。

指標

番号	指標	現状値 (2023 年度)	目標値 (2024 年度)	目標値 (2025 年度)	目標値 (2026 年度)
①	市内のDカフェ開催箇所数	22 ヶ所	28 ヶ所	34 ヶ所	40 ヶ所
②	まちづくりワークショップ参加者数	88 人	100 人	100 人	100 人
③	認知症普及啓発イベントの参加者数	180 人	200 人	200 人	200 人
④	広報ツールを活用した「16 のまちだアイ・ステートメント」の周知	—	検討	実施	実施
⑤	認知症サポーターに対する地域活動の情報提供回数	12 回	16 回	20 回	24 回

7

認知症の人とその家族の支援に取り組む

取組みの概要

認知症の人やその家族が、安心・安全に生活できるための取組みです。

「認知症電話相談」や「医師による物忘れ相談」等の各種相談窓口の設置のほか、認知症の早期発見・早期受診のための支援に取り組めます。

認知症等の症状により、帰宅することができなくなった場合等の備えとして、位置情報を発信する機器(GPS)の貸与を行います。また、これ以外にも、防災無線による呼びかけや、新聞販売店、鉄道会社、FM ラジオ局等との連携により早期発見のための支援を行います。

主な取組み

① 認知症相談の実施

認知症への不安や病状の相談、受けられる介護サービスのアドバイスなど、専門の相談員が電話で対応します。また、これ以外にも、市内12か所の高齢者支援センターでは、医師や臨床心理士等が対面での相談をお受けします。

② 認知症の早期受診支援(認知症初期集中支援チーム事業)

医療や介護の専門職で構成されたチームが高齢者の自宅を訪問し、認知症に関する様々な相談に対応するとともに、医療機関への受診支援や介護サービスの紹介を行います。認知症の早期に必要な医療を受け、状態に応じた介護サービスを利用いただくことで、安定した生活の継続を図ります。

③ 認知症の人の家族等への支援

認知症の人だけでなく、その家族の負担や不安の軽減につながる支援が求められています。そのため、家族へのヒアリングにより生活上のニーズや思いの把握に努め、D カフェや地域団体が行う支援活動など、既存の社会資源の十分な活用を図るとともに、それ以外の必要とされる支援について、検討のうえ実施します。

④ 行方不明高齢者の搜索支援

認知症等の症状により、帰宅することができなくなる場合があります。このような場合に備え、位置情報を発信する機器(GPS)の貸与を行います。

指標

番号	指標	現状値 (2023年度)	目標値 (2024年度)	目標値 (2025年度)	目標値 (2026年度)
①	認知症電話相談件数	240件	250件	250件	250件
②	認知症初期集中支援チーム事業により医療機関の受診につながった対象者の割合	70%	70%以上	70%以上	70%以上
③	認知症の人の家族等への支援の実施	—	検討	実施	実施
④	行方不明高齢者探索サービス(GPS貸与)の利用者数	110人	115人	120人	125人